

秋季せん定について



凍害を防止（貯蔵養分を確保）するため、**5～8年生までの若木**の秋季せん定は極力行なわない。
ただし、**ボルドー散布をかかりやすくするための、徒長枝の整理は実施する。**

1. 秋季剪定の効果（ねらい）

- ① 葉がある時期なので、樹冠下の明るさや樹勢を確認しながら、適正な誘引や剪定が可能
- ② 枝が肥大する前に剪定するため、剪定後の切り口が小さく癒合も良好で枯れこみが少ない。
- ③ 樹全体の日当たりが良くなるため、花芽や葉芽などの枝の充実が良くなる。
- ④ 冬季の剪定量が少なくなるため、厳寒期の作業が省力化できる。
- ⑤ 特に勢力が強い樹では、翌年の徒長枝の発生が少なく、新梢管理が省力化できる。

（切るほどに樹勢は抑制される）

- ⑥ 防除薬剤の散布ムラがなくなり、防除効果が高くなる。

* 本年、せん孔細菌病が多発しているのので、ボルドー散布前に実施し効果を高める

2. 実施時期及び方法（下図参照）

- ① 9月上中旬～
- ② 密植園では、間伐→縮伐の順に実施する
- ③ 明らかに冬季剪定で切る太枝は秋季に切除する
- ④ 剪定した切り口には、必ずトップジンMペースト等を塗布する
- ⑤ 太枝を中心に実施し、1日で10a程度切るペースで実施する
- ⑥ 老木樹や樹勢が弱い場合は、秋季せん定を行なわない

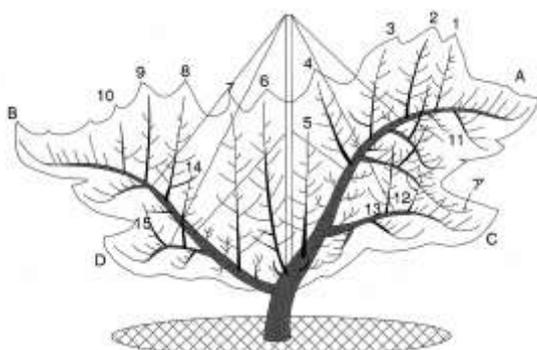


図2 秋季剪定実施前

（図中の記号：A・B 主枝、C・D 亜主枝、
ア側枝、1～15徒長枝）

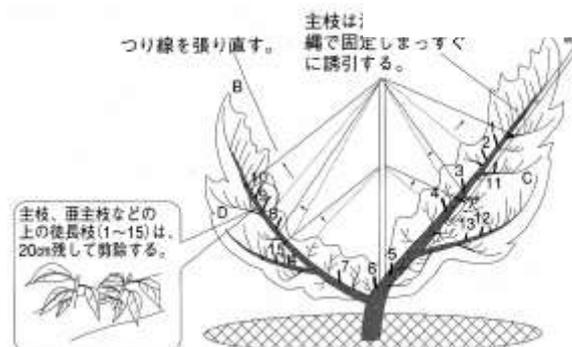


図3 秋季剪定実施後

（図中の記号：A・B 主枝、C・D 亜主枝、ア側枝）

3、当面の管理

①礼肥の実施及び9月肥の実施

- * 礼肥・・・天然ボカシ肥 5 袋 (75 k g) 又は発酵ケイフン 7 袋 (105 k g)
- * 9月肥料・・・ニュー果じゅっこ 3 袋 (60 k g) またはもも有機 4 袋 (80 k g)

②ボルドー散布 (せん孔細菌病対策)

- * もも・・・4-12式ボルドー
 - * ネクタリン・・・icボルドー412
- 多発園は3回実施 コサイド3000の2000倍も使用可
特に台風前が有効
- 付着効果を高めるため、展着剤アピオンEの1000倍又はKKステッカーの3000倍を使用する

③コスカシバ、カイガラムシ対策 (9月は重要防除時期)

- * 9月上旬が産卵最盛期になる→9月は重要防除期となる
- * もも・・・スミチオン乳剤 1000倍
- * ネクタリン・・・ダイアジノン水和剤 34 1000倍
- * カイガラムシ発生園・・・アルバリン顆粒水溶剤 2000倍、ダントツ水溶剤 4000倍のいずれかを散布する

4、芽接ぎ方法 (下図参照)

①実施時期：9月中下旬まで

②方法：よく充実した新梢を採取し、葉柄を残して葉を落とす

- ・採取した新梢は、ビンに水を入れ枝を差しておく (持ち運ぶときは濡れ新聞紙等に包みポリ袋に入れること)
- ・必ず葉芽があることを確認して行う

③活着の確認：芽接ぎ1週間後、葉柄が手で触ってポロッと落ちれば活着している。(もし黒く萎凋して落ちなければ不活着である。早急に再度芽接ぎを行う)

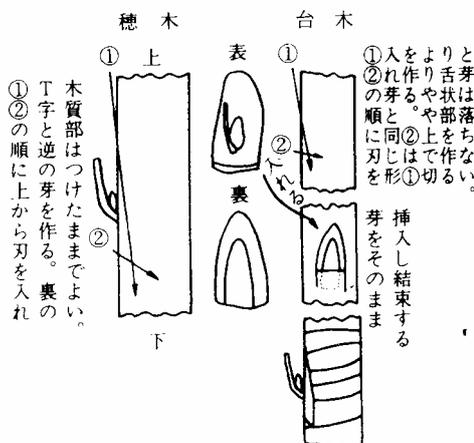


図4-3 そぎ芽接ぎ法

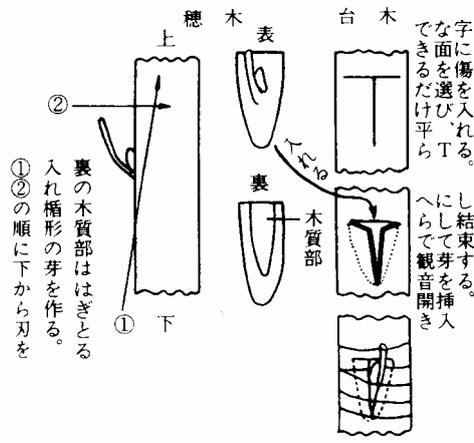
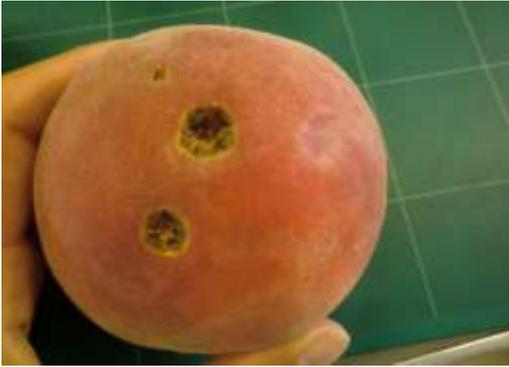


図4-4 T字芽接ぎ法

【感染（発病）時期の判別】



「早期感染」



「梅雨期～の感染」

(2) 「せん孔細菌病の耕種的（総合的な）防除」

1. 秋季ボルドー散布

越冬菌を減らすための防除。この防除が基本。

2. 被害部位の除去

開花期前後から5月にかけて新しい春型枝病斑（スプリングキャンカー）が形成される。春型枝病斑が一次伝染源になるのでせん除を徹底する。

多発園地では、夏型枝病斑の除去も実施する。

3. 果実の袋かけ

果実に袋をかけることによって果実への感染を防止する。本年の場合、梅雨期前に袋掛けを実施した園地では、比較的果実感染が少ない傾向。

4. 風あたりを少なくする

風雨を強く受けるところで発病が多くなるため、防風林などで防風対策を講じる。

生育期

◎春型枝病斑（越冬伝染源）から葉・果実・枝に感染

●春型枝病斑や発病部位の摘除

●薬剤散布

開花前：銅剤（ボルドー液など）

生育期：抗生物質製剤（アグレプト、アグリマイシンなど）を中心とした殺菌剤

落葉期

◎落葉痕や皮目からの感染

(落葉痕からは落葉後1日程度は感染の可能性あり) 自然落葉の場合

- 銅剤による予防散布
- 秋季せん定を実施して薬剤のとおりを良くする

(4) 「ボルドー液による汚れ(飛散)が気になる場合は」

ボルドー液が効果を発揮するために、いつ散布すれば良いか?

- ①この時期のせん孔細菌は、水(雨)がなければ移動できません。
- ②せん孔細菌は、主に落葉痕と皮目から侵入します。落葉後、落葉痕が塞がるまでには、自然落葉で1日(強制落葉の場合は数日)かかります。
- ③落葉前にボルドー散布することで、降雨時には薬液が落葉痕をふさぐ作用があります。
 - ・代替農薬 「コサイド3000」 使用倍率2,000倍(水100ℓに50g)または、「ムッシュボルドーDF」の500倍(水100ℓに200g)でもよい。

散布後の汚れ比較

「ムッシュボルドーDF」散布



「ICボルドー412」散布



- ・ムッシュボルドーDFはボルドー液と比べて残効性が劣る。10日以内。
- ・ムッシュボルドーDFは、クレフノンを加用しないで散布した際、落葉を生じる場合がある。

薬剤の単価比較

薬剤名	使用倍率(100ℓ当)	規格	散布100ℓ 単価
i cボルドー412	30倍(3.3kg)	5k	約910円
ムッシュボルドーDF	500倍(200g)	1kg	約510円

固着性展着剤

薬剤名	使用倍率(100ℓ当)	規格	散布100ℓ 単価
KKステッカー	3000倍(33ml)	500ml	約80円
アピオンE	1000倍(100ml)	1ℓ	約200円